

2026年度 九州大学 前期 国語 教育・法・経済

一 問 1 どの政党のどの政策を 〽 抜き取られている。

問 2 (ウ)

問 3 対立を避け、政治的な党派性を回避し、なるべく政治的に中立でいようとすると、政治的中立という気持ちを惹きつける巧みな言葉を用いたパワー・ゲームに巻き込まれ、一方の都合がよいように使われ、中立にとどまろうとすればするほど、政治的な意味を持つてしまうから。

問 4 さまざまな価値が対立すること、そしてそれらのいずれにもコミットしないという意味での中立はありえず、なんらかの価値へのコミットメントを前提として、いろいろな価値が対立することを何度も確認し、それを根拠にして事実と価値の峻別を主張すると同時に、それらの価値を突き合わせ、それを検討するなかで、自分に対して自分の価値を明晰に自覚化することを求める考え。

問 5 意見や見解が分かれる問題に踏み込んで議論する中で、自分の考えと他者の考えの相違点を確認し、その違いがどのようなものかを認識し、それぞれの立場の理由を検討するというプロセスを経ることで自分の意見を持ち、自分で決めることができるようになっていくから。

問 6 「党派性」とは対立する様々な価値へのコミットメントを前提とし、その価値に関わる集団への賛否の態度を明確にして関わることだが、原発問題のように、意見や見解が分かれる問題に踏み込んで議論させないため、討論する政治文化の育っていない現代の教育現場の中で回避されてきた、特定の政策集団への立場を明確にする態度のこと。

二 問 1

「美」「芸術」「感性」という対象領域をもつ美学の営為においては、終始、「具体的事象」と「抽象的思弁」とのいずれにも限定できない中途半端な態度で学問探究を深め続けていくことが、その本来的なあり方であるということ。

問 2

「美しいもの」は一回かぎりの「批判」の対象にほかならず、客観的な証明根拠を必要とする「学問」の対象にはなりえないにもかかわらず、美学が「美」や「芸術」を学問の対象とし、「美しいもの」についての学問「美しい学問」ということには、根本的な矛盾があるということ。

問 3

あくまでも「説明しがたいもの」である美を美学的な営みが捉えて批判することに疑念を抱くということであり、「理念的な美」と「現実的な作品」との両方に関わる美学が「混乱状態」にあることを批判するということ。

問 4

「ステレオタイプ」とは、美学の「混乱状態」を批判する紋切り型で普遍的な疑念であり、それに対し、美学を学問領域ではなく、今日「芸術」と呼ばれるものを見いだした体制の名称だとし、美学の「混乱状態」は、むしろ「詩学」から「美学」への体制変革を可能にするために不可欠なものとしたランシ

エールの議論の帰着が、美学の再評価を促すものになるという意味で「戦略」となる。

問 5

そもそも美学が、「美」「芸術」「感性」というまったく異なるレベルの対象領域をもち、「理念的な美」と「現実的な作品」との両方に関わる学問分野であるかぎり、両者のいずれかに純化して他方は排除すべきであるという美学に対する批判を免れることは、本来的に不可能であるということ。

問 6

美学が「理念的な美」と「現実的な作品」との両方に関わることを認め、「美」「芸術」「感性」をめぐって異なるレベルの議論が錯綜するところに、政治が美学を基盤として人々の情動に訴えかけることによって、人間の感性的認識に着目し、批判的に問い直すことを可能にする潜在的力の発揮を期待できるということ。

問 1

- ① 言いようもないほど立派な様子で
② 熱心に申し上げなされたので

問 2

- X 存続（完了）の助動詞「り」の已然形
Y 強意（完了）の助動詞「ぬ」の命令形

問 3

頼義は、九郎が着用している鎧は先日敵の手に渡せと指示したのではないかと指摘をし、それに対して九郎は、指示を守り現在は別の鎧を着用していると答えた。

問 4

九郎の出で立ちが、それを羨んだ味方に真似をさせ、財力を衰えさせるような悪影響をもたらすと考えていたため、見映えのしないたいそう古びた鎧を着用している今なら、その心配がないと思われるから。

問 5

ア 見た目にかかわらず、用途に役立つ性能を満たしているかどうかという点。

イ 総じて、見た目が派手なものは敵の目につき狙われやすいので、思いがけず命を落とすに違いないと思われるから。

四

問 1 どろぼうが中身を盗もうと箱の蓋を斧で壊して開けたところ、思いがけず人間が入っていたから。

問 2 箱の中から頭を上げて見回すと、激しい炎が上がり黒煙が立ち込めており、さらに多くの人々が泣き叫ぶ大きな声が聞こえたから。

問 3 傍らに老叟の亦た火を避くる者有り。

問 4 因りて語るに夜来の大焼（の）事を以てす。

問 5 （エ）

問 6 ㉔ すでに ㉕ また ㉖ すなはち ㉗ ますます
（わ）